

「Miracles of Chicago（シカゴの奇跡） ～全日校小中学部・すみれ幼稚園 リモートラーニングで学習開始」

アメリカ シカゴ日本人学校 全日校教頭 若林 寿

- 今回は、本校の協力的な保護者の皆様と、機動力のある教職員の自慢をさせていただこうと思います。
- 去る4月30日、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、イリノイ州知事から自宅滞在命令期間の1か月延長が発表されました。
- また、4月に日本から来る予定であった5名の教員の派遣も暫く見合わせとなり、学校再開は絶望的な状況に追い込まれました。
- 長期間、自宅での学習を余儀なくされることになった子どもたちの顔が浮かび、なにか方法はないものかと思案しました。そこで、家庭での学習をサポートする目的で、現地校を見習いリモートラーニングの導入を決意しました。
- 初めのうちは、リモートラーニングを実施するためには、子ども一人1台のPC端末を支給したり、システムの整備を専門業者に委託したりして、たくさんのお金を費やして導入するしか方法はないと思い込んでいました。しかし、調べてみると、やり方次第では本校でも実施することが可能であることが分かりました。

- リモートラーニングを行うには、次の3つを整備することが必要になります。
それは、①PCやタブレット等の端末、
②子どもたちが使用するアカウント（メールアドレス）、
③インターネット（Wi-Fi）環境です。
- 本校でリモートラーニングを実施するにあたり、この3つの全てについて、ご家庭が全面的に協力してくださいました。
- アカウントの取得等に関しては、PTA役員や学級委員の皆様が中心となり、短い期間で準備を進めてくださいました。
- リモートラーニングには、Google ClassroomとGoogle Hangouts Meet等、誰でも使えるよう工夫されたツールを使用することとし、これによって、教職員も自宅から授業を行ったり、会議に参加したりすることが可能となりました。
- 日本での待機を余儀なくされている新派遣教員も、時差を超え、海の向こうからリモートで授業を行っています。
- 導入に至るまでの道のりは決して平坦ではありませんでしたが、1日でも早く子どもたちの顔が見たいという思いで、教職員一同知恵を出し合い、力を合わせて頑張りました。

- そして、小中学部については４月１３日（月）を始業日、１４日（火）を入学日とし、また、すみれ幼稚園では２０日（月）を始業日として、リモートでの授業を開始しました。
- リモート初日には、担任の発表や担任からの挨拶をドキドキ・ワクワクしながら聞いていた子どもたちの姿がありました。
- この日まで、立ち上げから僅か２週間でした。私の中では、このことを「Miracles of Chicago（シカゴの奇跡）」と呼んでいます。
- 今では校内のすべての会議や打ち合わせをリモートで行っています。もちろん、私たちの挑戦はまだ始まったばかりですが、実践を重ねてさらによいものにしていきたいと考えています。
- 保護者の皆様には、この新しい試みを速やかに軌道に載せるために多大なご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。
- そして、ＪＣＣＣ（シカゴ日本商工会議所）や双葉会運営委員の皆様の応援やご理解があったからこそ、私たちも思い切った試みができました。これからもご支援ご協力の程、よろしくお願いいたします。

全日校のリモートラーニング

- 小学部 1日4時間授業
(各時間：20分オンライン授業・25分自主学習/45分)
- 中学部 1日5時間授業
(各時間：20分オンライン授業・30分自主学習/45分)
- すみれ幼稚園 年中・年長 各1日1回実施

学校の規模

- 幼稚部 年少 20 名 年中 20 名 年長 20 名
- 小学部 120 名
- 中学部 40 名

今後の課題

- リモートラーニングにおける評価をどのように行うか。
- 課題の提出の仕方について（特に小学校低学年）

